

POSA 事業報告

Project
Operation
Sight for
All

No. 27

●2024 年度



POSA 目次

2024 年度手術症例数及びスクリーニング症例数	• • • • • P1
理事長より	—
「身に余る光栄」	
POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀	• • P2
副理事長より	—
「2024 年バングラデシュ政情不安」	
POSA 副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長 井上 望	• • P3
国際エンゼル協会より	—
「2024 年度 POSA アイキャンプ報告書」	
認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長 東村 良平	• • P4
認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者	
	アジズル・バリ • P5
ライオンズクラブより	—
「人のつながりとアイキャンプ」	
2024 年度 神埼ライオンズクラブ会長 吉原 俊樹	• P6
バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー	
	Md. Shafiul Alam Shamim MJF • P7
アイキャンプ参加者より	—
「次のアイキャンプを見据えて」	島根大学 客員研究員 佐野 一矢 • • • P8
「チャリティーコンサート」	菊池市会計年度職員 佐伯 陽子 • • • P10
「continue」	熊本県立大学 3 年 中村 紗也佳 • • P12
「バングラデシュへの再訪」	熊本県立大学 3 年 前村 実優 • • • P13
ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い	• • • • • P14
ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法	• • • • • P15
ふるさと納税の返礼品	• • • • • P16
2024 年度事業報告	• • • • • P17
2025 年度事業計画	• • • • • P18
POSA アイキャンプ白内障手術の症例数	• • • • • P19
2025 年度 POSA アイキャンプの日程・ご支援頂いた方の一覧表	• • • • • P20
POSA 理事・監事・名誉会員・一般会員名簿・POSA 規約(一部抜粋)・入会のお願い	• • P21

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

手術症例数及びスクリーニング症例数につきましては下表。607 名のスクリーニングを施行し手術適応者が 137 名。実際には 137 名のうち 73%にあたる 100 名の方が手術会場であるダッカライオンズ病院に来られた。初日が 36 名。2 日目が 21 名。3 日目が 22 名。4 日目が 21 名でした。

22nd Eye Camp of POSA-2024
Health Care Center
International Angel Association
Konabari, Gazipur

Patients Screening Program

Sl.NO	Date	Place	Male	Female	Total pts
1	19.10.24 Saturday	Fayez uddin Sarker Universal College, Amraids, Kapasia, Gazipur.	137	163	300
2	26.11.24 Saturday	Sahera Nayeb Laboratory School, Seedstore Bazar, Bhaluka, Mymensingh	47	76	123
3	October. 24	Fayez uddin Sarker Universal College Amraids Kapasia Gazipur	71	113	184
Total			255	352	607

Selected Patients for Operation

Sl.NO	Place	Male	Female	Total
1	Fayez uddin Sarker Universal College, Amraids, Kapasia, Gazipur.	40	21	61
2	Sahera Nayeb Laboratory School, Seedstore Bazar, Bhaluka, Mymensingh	13	12	25
3	Health Care Center, Konabari, Gazipur	24	27	51
Total		77	60	137

Final Operation of POSA 22nd Eye Camp -2024 in Lions Eye Hospital, Dhaka

Sl.NO	Date of Operation	Male	Female	Patients
1	03-11-2024	27	9	36
2	05-11-2024	10	11	21
3	02-02-2025	11	11	22
4	04-02-2025	9	12	21
	Grand Total	57	43	100

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「身に余る光栄」

POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀

2024年11月6日、国際ソロプチミストSI久留米のご推薦により公益財団法人ソロプチミスト日本財団「千嘉代子賞」を授受いたしました。

過去30年間に渡るインド及びバングラデシュでのボランティア活動に対するものとお聞きいたしました。

「身に余る光栄」という言葉はよく聞きます。私にとってはこれぞリアル「身に余る光栄」だと感じております。まさに、過分な受賞であると感じております。これは私に対しての賞ではなく、これまでのすべての参加者、特にPOSA副理事長である熊本の菊池眼科の井上望先生、さらに現地のスタッフの皆様や患者さんのお世話を手伝ってくれた現地エンゼル協会の孤児の子供たち、これらすべての人々に向けての賞であると感じております。

同時に表彰された方にはノーベル賞受賞の中山伸弥教授のiPS細胞の実用化を目指しハダカデバネズミを用いて研究に取り組んでおられる「女性研究者賞」受賞の熊本大学大学院生命科学研究部の三浦恭子教授。「ドリーム賞」受賞のスキージャンプで世界的にも有名な葛西紀明選手のおふたかたがおられました。その他多数の方々に各賞が授与されました。

また、20年以上前よりライオンズ国際協会より『LCIF 地区及びクラブシェアリング交付金』として毎年1万ドル（神埼ライオンズクラブのご推薦による）の御寄付をPOSAにいただいております。これは毎年の手術消耗品や医療機器の購入にあてさせていただいております。

さて、2024年バングラデシュにおける暴動も後遺症を残しつつ次第に沈静化しています。

2025年秋にも各種困難を乗り越えて、日本人眼科医と現地眼科医の協力による眼科医療援助（白内障手術）活動を行う予定としております。

手術においてのみならず実際のバングラデシュ国内移動、滞在においてもリスクマネジメントを第一に考え、今後もより安全な活動を継続していきたいと考えております。

今後ともPOSAの活動を温かい目で見守っていただけると幸いでございます。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2024年バングラデシュ政情不安」

POSA 副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長 井上 望

2024年9月、現地眼科医によるスクリーニングを607名行い、その中から経済的に貧しい患者さんを手術適応として 同年11月から翌年2月にかけて100名の手術を行いました。

今回はバングラデシュ訪問する直前の8月にハシナ首相が民衆のデモにより国外退去との政情不安がありました。その際民衆による暴動があったため、外国人である我々が表立って活動する事は多少なりとも危険を伴うと判断しました。例年は私たちが手術をしていましたが、今回はPOSAが資金を拠出してダッカのライオンズ病院で現地眼科医に手術を施行していただきました。11月の手術日に合わせて私たちもバングラデシュを訪問しましたが、特に問題なく今年の活動を見届けることができました。現在のところバングラデシュの治安は安定している様なので、このまま何もなければ2025年は例年通りの日本人によるアイキャンプができるかと思っています。

最後になりましたが、昨年10月に熊本県菊池市文化会館でPOSAチャリティーコンサートを行いました。その際多くのご寄付をいただきありがとうございました。コンサートの詳細は同行した佐伯さんが後頁で報告しています。皆様のアイキャンプご参加を今年もお待ちしています。



右側が井上先生

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2024年度 POSA アイキャンプ報告書」 認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長 東村 良平

日時：第一回 2024年11月3日 36名
第二回 2024年11月5日 21名
第三回 2025年2月2日（予定）22名
第四回 2025年2月4日（予定）21名

場所：ライオンズホスピタル
(Lions Bhaban, Begum Rokeya Sarani, Agargaon, Dhaka, Bangladesh)

内容：2024年は11月2~4日の日程で日本人眼科医師によるアイキャンプを実施する予定となっておりました。しかし7月後半より現地の学生デモが激化、政権が転覆する大事件となってしまいました。この7月の学生デモの影響に加え、8月に起こった大規模な洪水被害も起り、11月まで不安定な状況が続くのではないかと心配し、今年度は現地の医療機関にて現地医師によるアイキャンプへと変更となりました。その後事態が驚くほど速く収束し、9月末の時点ではもう渡航も問題が無いと思われるくらい安定しましたが、昨年同様に日本人医師の元でアイキャンプを実施するには準備期間が足りず、予定通り現地医師により首都ダッカ市内にあるライオンズホスピタルにて4回に分けてのアイキャンプ実施となりました。

現地の政情が安定したこともあり、日本人医師及び看護師、学生6名は第一回目の手術日に合わせてバングラデシュへ向かわれ、現地のアイキャンプの視察をされました。また当協会の現地クリニックにご寄付いただきました医療機器の確認もされました。井上医師より帰国後「滞在中は普段と変わらず情勢も落ち着いており平穏に過ごすことができたこと、特に学生の方には途上国で行われるアイキャンプを実際に肌で感じることができて大変良い刺激となったこと」をお話いただきました。

現地の医療機関の都合上、まとめて一度での手術が不可能であったため11月は約半数の57名が手術を受けました。残りの43名に関しましては2025年2月2日、2月4日に手術実施の予定となっております。11月に手術を受けた患者さんは「自費での手術は経済的に困難であり見えにくいことは諦めていたが、アイキャンプにて無償で手術していただき日々の生活が明るくなりました。とても感謝しています」と、とても喜ばれていました。ありがとうございました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者
アジズル・バリ

皆さんこんにちは。

今年もみなさんのご協力で 100 人の村人の手術が無事終わりました。

2025 年まで 1,771 人の方が見えるようになりました。見ることができることの喜びを言葉では伝えることができません。

本当にみなさんのおかげだと心から感謝をしております。

これからもよろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。

Md. Azizul Bari
Executive Director
International Angel Association

Region Chairperson
Lions Club of Dhaka Central
Bangladesh



右から 3 人目がバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「人のつながりとアイキャンプ」

2024年度 神埼ライオンズクラブ会長 吉原 俊樹

アイキャンプは1995年のインドからスタートして、第7回からはバングラデシュでの取組みとなり、来年の2025年には、なんと30年目を迎えます。

2009年に一度アイキャンプに同行する事ができましたが、あらためて思い起こすと、まずは進まないインフラ整備と生活文化のカルチャーショックを確かに強く感じましたが、何よりもゆるぎない崇高なる思いで医療活動を行う医師団をはじめ、終始笑顔で手伝いをこなす小学生程度中心の孤児施設の子ども達の温かみのあるお手伝い、とにかく献身的なスタッフ対応に感動しました。

とくに、アイキャンプに関ったすべての人々が、援助や支援の功績が称えられる事よりも、アイキャンプを行う事により、たくさんの出会いや発見による価値観の見直しや大切なものの見つめ直し、見落としのきっかけなどを感じ取る貴重な体験につながる事を目指されており、何か与える側の活動だったはずが、アイキャンプを通じて逆にもたらされるものがたくさんあった事が思い出されます。

縁あって結びついたアイキャンプのメンバーによって、精神的なつながりにより必然的に自発機能する「人のつながり醸成」が図られており、この永年の継続に繋がっていると強く感じられます。

今、日本は「市民協働」の言葉が使われはじめて久しく、皆が当事者としての動きを目指す、SDGsのゴールの年である2030年にも近づいてきました。

まちづくりや地域再生はその地の「自発の人のつながり力」がバロメーターと言われています。今期、会長となり「人とまちをつなぐ奉仕」のスローガンを掲げました。ライオンズで国境を越えた人道支援のアイキャンプや、地域で行っている多様な奉仕も人のつながりがあってのものです。

今後も誇りあるアイキャンプと共にたゆまぬ継続発展を目指しましょう。



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー

Md. Shafiul Alam Shamim MJF



Dear fellow Lions members of Kanzaki Lions Club, Japan.
Our heartiest greeting from Bangladesh. Hope all of you
are fine.
The people of Bangladesh received your kind support since
2000 to till today through arranging Eye Camp & Cataract
Operation to rural areas. We the Lions believe "Lionism
is humanism" and service to mankind is service to the
Almighty. Japanese people's contribution is a big part to continue Lions
International's activities to the world.
Thanks for your visit last November, 2024 & support to Lions Foundation Hospital
Dhaka. Hope our friendship will continue in the future too.
With Lionistic regards to all Lions member in Japan.

翻訳

日本の神埼ライオンズクラブのライオンズ会員の皆様。バングラデシュから心から
のご挨拶を申し上げます。皆様がお元気でいらっしゃることを願っております。バ
ングラデシュの人々は、2000年から今日まで、農村部へのアイキャンプや白内障手
術の手配を通じて皆様の親切な支援を受けてきました。私たちライオンズは、「ライ
オニズムはヒューマニズム」であり、人類への奉仕は全能者への奉仕であると信じ
ています。日本の皆様の貢献は、ライオンズインターナショナルの活動を世界に向
けて継続する上で大きな役割を果たしています。
2024年11月のご訪問とダッカのライオンズ財団病院へのご支援に感謝いたします。
私たちの友情が今後も続くことを願っています。
日本のライオンズ会員の皆様に、心からの敬意を表します。

Md. Shafiul Alam Shamim MJF
District Governor 2024-2025
Lions International
District 315 B2, 66149, Bangladesh.

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「次のアイキャンプを見据えて」

島根大学 客員研究員 佐野 一矢

2024年月の学生デモに端を発した反政権運動は暴動化し、ついにハシナ政権打倒となつた。政府機能不全となったバングラデシュ社会は大きく混乱し、治安は大きく乱れた。首相官邸に暴徒がなだれ込み略奪する映像は衝撃的であった。その時点でアイキャンプ開催に暗雲が立ち込めた。

現地在留邦人である友人からの情報を倉富先生、井上先生にお伝えし協議により、アイキャンプ参加者の安全を第一優先とし、残念ながら今回は見送ることになった。予定された手術は、首都ダッカのライオンズ眼科病院にお願いし、その手術立ち会いのため最小人数でバングラデシュ入りすることになった。

ダッカ空港周辺は落ち着いているようだったが、郊外に向かう道路脇には暴動で燃やされたバスや車の残骸が黒焦げのまま放置されそのまま生々しさを物語っていた。無事にエンゼルホームに着くといつもの子供達が出迎えてくれた。バングラデシュの喧騒の中において、エンゼルホームの敷地は「オアシス」であり子供たちはまさに「エンゼル」である。そんなエンゼルホームで、しばし子供たちと交流(皿回しなどの余興も)した後、ホーム内のクリニック手術室で備品等の整理を行い、翌日ライオンズ病院へ向かった。

ダッカにあるライオンズ眼科病院は最近リフォームされ、また新規病棟が建設中とのことだった。ひと通り検査機器も揃い、手術室も整っている印象であった。快く手術を受けて下さったことへ感謝を伝え、手術に立ち会わせていただいた。

現在、幸いバングラデシュの情勢は落ち着きを取り戻しているようである。今回ライオンズ眼科病院視察にくわえ、次(2025年)のアイキャンプに向け、手術機器や備品の整理を行ってきた。バングラデシュ政情の安定と人々の安全を願いながら次回以降のアイキャンプ開催を計画しているところである。

さて、私が勤務していた島根大学には、POSAアイキャンプを手伝ってくれていた視能訓練士のアイシャムクタが大学院に入学している。幼少期をエンゼルホームで過ごしPOSAのアイキャンプを間近で見てきた彼女は、将来日本に留学する夢を持っていたようである。そんな彼女の熱意と努力が実り、見事、大学院に合格し現在眼科学講座で緑内障の研究を行っている。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

また、彼女を通してバングラデシュの医師が島根大学病院に手術見学に来られている。これらも POSA の活動の大きな副産物である。現地でのアイキャンプに留まらず、活動が教育や人的交流に繋がっているということに、POSA の存在意義を改めて感じているところである。



右側が佐野先生



現地眼科医による術前の診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「チャリティーコンサート」

菊池市会計年度職員 佐伯 陽子

コロナ明けから再開した POSA のアイキャンプに参加させていただき、毎回子どもたちの歌や踊りの歓迎レセプションに感動しています。私も何かできないかと思い、その場で英語や日本語の歌を歌うようになり、日本の唱歌『ふるさと』などを子どもたちも一緒に歌ってくれて、とても感動しました。ただ、子どもたちが喜んでくれるかと、ディズニーの歌を歌った時は反応が薄く、後から聞いてみると、バングラデシュの子供達は日本のようにアニメや映画音楽等に触れる事がほとんどないようでした。

職場の同僚にハープやフルートをされている方がいて、一緒に演奏してみないかとお誘いをうけ、何度か熊本でミニコンサートを開きました。そこでひらめいたのが、POSA のチャリティーコンサートでした。ポスターは前回から一緒に行った大学生の中村さんに、POSA の事業内容のプレゼンは、副理事長でもある井上先生にお願いしました。エンゼル協会で販売されているノクシカタや、バングラデシュで製造された革製品なども販売して募金箱も設置しました。小さな会場でしたが約 50 人ほどの来場があり、ハープやフルートに加えてギターやピアノに合わせて、約 10 曲ほど歌って楽しい時間を過ごすことができました。

このコンサートは POSA の事を知りていただくいい機会になったと思っています。今年もまたぜひチャリティーコンサートやりたいと思っています。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「continue」

熊本県立大学3年 中村 紗也佳

私は、去年初めて POSA アイキャンプに参加し、心に残る貴重な経験となったため、今年も絶対に参加すると決めていた。しかし、2024年7月上旬から、政府に反発するデモ隊と警察との激しい衝突が続き、POSA アイキャンプは、一時中止となった。中止の報告を聞いた時は、残念に思うと同時に、バングラデシュに住んでいる子どもたちの安否が気になった。私は、バングラデシュの子供たちと facebook で繋がっていたので、ニュースを見て、すぐに子供たちにメッセージを送った。子供たちは、元気に生活していると知り、安堵した。また、子供たちと何度かテレビ電話をして、会えない期間にも笑顔と元気をもらい、絆を深めることができた。

9月ごろに今年も会いに行けるという報告を聞いたときは、すごく嬉しく思った。今年は、短期間の滞在ではあったが、病院の視察やマジックショー、バリさん宅でのお食事会など、とても濃い時間を過ごすことができた。また、子供たちと再会したとき、去年と変わらない純粋な笑顔や手作りのハートをもらった。ある1人の女の子の耳元を見ると、去年交換したピアスを付けてくれていた。そのとき、国境を超えた繋がりや友情を感じることができ、とても嬉しい気持ちになった。

POSA アイキャンプを通して出会った人たちとの時間は、私にとって宝物である。それぞれの背景や経験を持つ人達との交流は、私の心に深く刻まれ、これから的人生においても大切な支えになると思う。2025年も POSA アイキャンプに参加し、この素晴らしい繋がりを続けていきたい。

最後になりましたが、貴重な経験を提供して下さった倉富先生、井上先生はじめとする他の医師や看護師、スタッフの皆様に御礼申し上げます。



Connections beyond borders
(国境超えた繋がり)



Friends
(おともだち)



Exchanged earrings
(交換したピアス)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「バングラデシュへの再訪」 熊本県立大学3年 前村 実優

今回、私はバングラデシュに2回目の渡航をしました。政治的な情勢が安定していなかったため、短期間の滞在となりましたが、その中で心に残る数々の思い出ができました。

特に印象的だったのは、昨年渡航時に出会った現地の友人たちとの再会です。1年間、Facebookを通じて連絡を取り合っていた友人もおり、私の名前や、飼っている犬の名前まで覚えていてくれました。さらに、彼らは盛大なおもてなしをしてくれ、心温まる時間を過ごすことができました。このような形で、国境を越えた友情が築けたことは、私にとって非常に貴重な財産となりました。バングラデシュを訪れたことで、私はその国に対する親しみが強くなり、バングラデシュのニュースを自分のことのように感じるようになりました。まるで第2の母国を持つような感覚です。昨年の渡航が、私にとってバングラデシュとの絆を深めるきっかけとなり、今年の滞在がよりその思いを強めたと実感しています。

また、今回は滞在時間が短かったためボランティアが少なかったもののバングラデシュの病院を訪れ、日本の病院との違いを実感することができました。

この旅を通して、私は友情の大切さや異なる文化に触れるこの面白さを改めて感じました。バングラデシュという国が、私にとってますます特別な場所となりました。このような機会を設けて下さり、ありがとうございます。



学生の皆さんと 右から2番目が筆者



エンゼルスクールの前で

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税によるPOSAへの寄付と年会費・入会金納入のお願い』

平素より POSA 活動のご理解ご協力有難うございます。

ご存知の様に POSA は皆様方の寄付金や年会費により活動しています。

POSA は佐賀県ふるさと納税対象団体に指定されています。つきましては同制度を利用して POSA へのご寄付をご考慮して頂ければ幸いです。

※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。(返礼品はないですが、寄付金控除はあります。)

佐賀県以外に在住の方の場合は寄付金控除と返礼品いずれも可となります。

☆1. ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。

※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。

※総所得の 40%までの寄付金が所得控除となります。

☆2. さらに住民税の 2 割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることがあります。

※ふるさと納税寄付金の 2,000 円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。

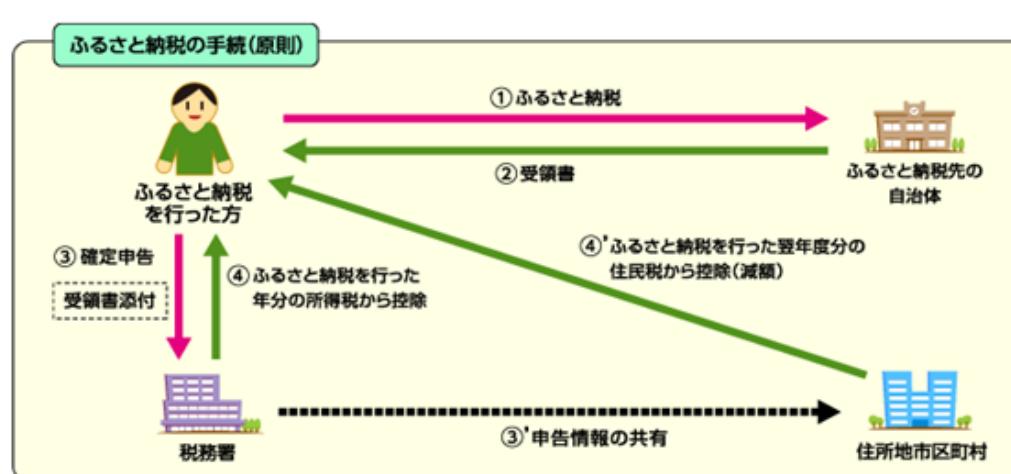
※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。

※ワンストップ特例制度は次の 2 つの条件を満たせば、利用できます。

①もともと確定申告をする必要のない給与所得者等であること

②1 年間の寄付先が 5 自治体以内であること

POSA にふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンプにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支は POSA のホームページでも公開し経理の透明性を保っております。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法』

○クレジット決済・郵便振替ご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索。
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック ⇒ 「地域さがす」をクリック
3. 「佐賀県」をクリックするとそのページの少し下にある「佐賀県 NPO 支援ページはこちら」をクリック、出てきたページの右側にある「使い道」をクリニック、そのページのほぼ一番下（下から 2 番目）に POSA があります。その中で返礼品を選択してください。金額も自由に選べます。
4. 「寄付へ進む」をクリック
5. 「この自治体の申し込みへ進む」をクリック
6. 会員登録がお済みの方は「ログイン」をクリック、お済みでない方は「会員登録して寄付する」か「会員登録しないで寄付する」をクリック
7. ○ 1) 特定非営利活動法人 POSA の「○」をクリックして「次へ進む」をクリック
8. 必要情報の入力をして「次へ進む」をクリック
9. 申し込みオプションの設定に必要事項を記入。
※ふるさと納税は確定申告をする必要があります。
但し、条件を満たせばワンストップ特例制度という確定申告が不要の制度を利用できます。
※ワンストップ特例制度をご利用の方は、「希望する」に必ずチェックを入れてください。
申告特例申請書が送られて来ますのでご記入の上、必ずご返送下さい。
10. 「確認へ進む」をクリックし、入力内容を確認する。
11. 申し込み確認事項を読んでいただき問題がなければ、「上記に同意する」にチェック
12. 「申し込みを確定する」をクリック ⇒ 完了
POSA 会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されると個人の自己負担は少なくなります。
入会金や年会費納入の場合は…その他 佐賀県へのメッセージの欄に {寄付金、入会金、寄付金} のうち該当するものご入力下さい。（複数可）
例：寄付金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済・郵便振替以外をご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「ふるさと佐賀県応援サイト/佐賀」のホームページをクリック ⇒ 「お申し込みのご案内」をクリック
3. 「ふるさと納税（NPO 支援）お申込みフォーム」をクリック
4. 「3. 金融機関での振り込みを希望される方」の「ふるさと納税（NPO 等の支援）お申込みフォーム」をクリック
5. 必要事項を記入 ⇒ 「入力内容確認」をクリック ⇒ 「送信する」をクリック ⇒ 完了

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

ふるさと納税の返礼品

自然豊かな多良岳の環境で、健康に育て上げたこだわりのブランド豚「金星佐賀豚」です。金星佐賀豚の特徴は、ドリップが出にくく、脂身がギュッと詰まった肉質は、高品質できめ細かく、口に入れると豚肉が持つ旨味が口の中に広がります。
くらとみ眼科医院ホームページ：<http://kuratomiganka.com/>
POSAホームページ：<http://www.posaoffice.net/>をご参照ください。

金星佐賀豚 100%のハンバーグセット
(寄付金 10,000 円につき 1 セット)



金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーのセット
(寄付金 11,000 円につき 1 セット)



ご家庭で一番使い勝手の良い、切り落とし (300 g) をお付け
した金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーのセット
(寄付金 11,000 円につき 1 セット)



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2024 年度事業報告

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2024 年 10 月 31 日から 2024 年 11 月 6 日まで

実施期間：2024 年 11 月 3 日から 2025 年 2 月 4 日まで

実施場所：バングラデシュ国ダッカライオンズ病院

派遣員：6 名

眼科医：2 名 井上 望 佐野 一矢

看護師：2 名 中村 るみ 佐伯 陽子

学 生：2 名 前村 実優 中村 紗也佳

活動内容：現地の眼科疾患の症例及び 607 名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び 100 名の白内障手術を実施。

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金
：バングラデシュの現状についての啓発活動



スクリーニングを待つ人

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2025年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2025年4月1日から2026年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2025年10月31日から2025年11月4日まで

実施期間：2025年10月31日から2025年11月4日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師及び視能訓練士及び一般参加

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金

：バングラデシュの現状についての啓発活動



村々からダッカライオンズ病院への送迎

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA アイキャンプ白内障手術の症例数

	実施年	実施場所	手術など	症例数
第1回	1995年2月	インド	白内障手術	37眼
第2回	1995年12月	インド	//	99眼
第3回	1996年12月	インド	//	125眼
第4回	1997年12月	インド	//	184眼
第5回	1998年12月	インド	//	184眼
第6回	1999年12月	インド	//	127眼
第7回	2000年12月	バングラデシュ	症例調査 スクリーニング	0眼
第8回	2001年12月	バングラデシュ	白内障手術	13眼
第9回	2002年12月	バングラデシュ	//	55眼
第10回	2003年12月	バングラデシュ	//	86眼
第11回	2004年12月	バングラデシュ	//	81眼
第12回	2005年12月	バングラデシュ	//	61眼
第13回	2006年12月	バングラデシュ	//	75眼
第14回	2007年12月	バングラデシュ	//	73眼
第15回	2008年12月	バングラデシュ	//	63眼
第16回	2009年12月	バングラデシュ	//	88眼
第17回	2010年12月	バングラデシュ	//	102眼
第18回	2011年12月	バングラデシュ	//	105眼
第19回	2012年12月	バングラデシュ	//	107眼
第20回	2013年12月	バングラデシュ	//	103眼
第21回	2014年2月	バングラデシュ	//	123眼
第22回	2017年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	//	55眼
第23回	2018年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	//	82眼
第24回	2018年11月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	//	40眼
第25回	2019年11月	バングラデシュ	//	96眼
第26回	2021年11・12月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	//	70眼
第27回	2022年11月	バングラデシュ	//	97眼
第28回	2023年11月	バングラデシュ	//	96眼
第29回	2024年11月 2025年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	//	100眼
			合計	2,527眼

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2025年POSAアイキャンプ日程

10月31日（金）昼 ダッカ到着 術前診察、手術準備
11月1日（土）手術1日目 午後 2日目患者さん術前診察
11月2日（日）手術2日目 朝 前日手術患者さん術後診察
午後 3日目患者さん術前診察
11月3日（月）手術3日目 朝 前日手術患者さん術後診察
11月4日（火）朝 前日手術患者さんの術後診察 午後ダッカ空港発

皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせ先：POSA 日本事務局 くらとみ眼科医院

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

TEL：0952-52-8841 FAX：0952-52-8685

E-mail アドレス：posa@train.ocn.ne.jp （担当者：田中）

暖かいご支援ありがとうございました

2024年4月1日～2025年3月31日

【寄付者】

公益財団法人ソロプロチミスト日本財団（国際ソロプロチミストSI久留米様のご推薦）
より「千嘉代子賞」、神埼ライオンズクラブ様、世戸憲男様、高尾博様、その他複数の方からご寄付を頂きました。くらとみ眼科医院募金箱、菊池眼科募金箱にもたくさんのご寄付を頂きました。

ありがとうございました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA 理事・監事

理 事 長	倉富 彰秀	(医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長)
副理事長	井上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
理 事	八谷 克幸	(佐賀県会議員)
理 事	橘 光幸	(橘商事 代表)
監 事	末永 博義	(末永司法書士事務所 代表)
監 事	峰 悅男	(峰公認会計士事務所 代表)

(順不同)

POSA 名誉会員

名譽会員	山口 祥義	(佐賀県知事)
	中尾 清一郎	(佐賀新聞社 社長)
	實松 尊徳	(神埼市長)

(順不同)

POSA 一般会員

芥川 泰生	井上 麻記	枝光 理	各務 晃子	小森 啓範
佐野 一矢	砂原 伸彦	世戸 憲男	高橋 雄二	瀧本 峰洋
照屋 武	照屋 邦子	長岡 広祐	中村 るみ	秀島 正博
福島 武	堀 秀行	山口 克宏	吉田 幸代	與那嶺 豊
株神埼薬局	ロートニッテン(株)	株毛利工務店		

(順不同)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA 一般会員入会を隨時受け付けております。ご連絡下さい。

(POSA 事務局 TEL : 0952-52-8841 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



ダッカライオンズ病院

Project Operation Sight for All
P O S A 事務局
〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1
医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院
TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685
ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>
E-mail アドレス posa@train.ocn.ne.jp

2025年4月発行